

ザッケローニの得意たるや！！

先日アジアカップ・サッカーを TV 観戦した。初戦はまだお互いにチームメイトが慣れていないせいもあり、不満足な試合であった。そして試合を重ねるにつれて連携もうまく動き出して徐々に試合らしくなってきた。決勝に勝ち進む頃から選手もうまくからみあって、まあまあの結果であった。決勝トーナメントに進んでから、ザッケローニの采配が光りだした。毎試合異なるヒーローが出現し、しかも前もってわかっていたかのように、すべての交代出場した選手が印象に残る活躍をした。……今まで数多くの監督の采配を見てきたが、何のための交代であったのか理解できないものばかりであったのが、ザッケローニによって、選手交代とはこういうことをいう、という見本のようなものを見せ付けられた。以前の監督のように、選手を選ぶ時点から不可解なものよりも、はっきりと「若手を育てるとともに試合に勝つ」意味が理解できるようになった。……ある人は、彼はすでに過去の人であり、10年以上前に全盛期だったから今は抜け殻のようなものだ、とまで酷評していた。今回の結果をみれば、全くの誹謗中傷に過ぎないことがわかった。

最大の交代は、決勝戦の対オーストラリア戦の李忠成である。李

は在日朝鮮人である。国籍を日本にするまでも日本人からも朝鮮人からも（韓国代表に選ばれたときにも）差別や嫌がらせをうけてきた。しかし、あのボレー・シュートの瞬間、誰もが快哉を叫んだろう、このとき差別がどうのなどといった次元の低い、くだらないことを考えなかったであろう。……ひょっとすると、**彼にとってもあるいは生涯最高のゴールであり、もう一度同じ状況になってもあれほどうまくいくかどうか**わからない。

選手が監督と一緒にあって抱き合って喜ぶなどといったシーンは今までなかったことである。しかも、ザッケローニは自慢するでなし、淡々とベンチにいる選手のことでも出場した選手たちもさりげなく褒めて、自らの功を誇るような態度を現わすことはなかった。

MVP は本田だったが、ボクの中では長友だった。試合中、10 数 km を緩急自在、しかも相手の動きに合わせて、それ以上の運動量が必要とされる守備の選手。終盤でも運動量が落ちない。それをみていたザッケローニのみならず、世界最高峰のイタリア・リーグでもトップのインテルが招聘したのである。まさか日本人がインテルに入団できるとは……と感慨深いものがある。それほど長友の活躍が素晴らしかったのである。 2011.02.22.